



平成23年度公立大学法人福島県立医科大学看護学部
公開講座委員会報告(学術活動)

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 福島県立医科大学看護学部 公開日: 2012-05-10 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 黒田, 真理子 メールアドレス: 所属:
URL	https://fmu.repo.nii.ac.jp/records/2000535

学 術 活 動

公開講座委員会

平成23年度公立大学法人福島県立医科大学看護学部公開講座委員会報告

看護学部公開講座委員会委員長 黒田真理子

平成23年度の公開講座は、大震災の影響もあり準備期間が短縮したため、1回のみで開催となりました。「がんサバイバーへの支援－がん看護専門看護師の研究から言えること－」というテーマで、10月29日（土）にユニックスビル5階研修室（福島市）にて開催されました。

本学部の講師であり、福島県立医科大学病院がん専門看護師である三浦浅子氏から、ご自身の看護研究の歩み、がん専門看護師として行った研究について、3C（Chance, Challenge, Change）など常に心がけていることを交えて説明していただき、本題のがんサバイバーへの支援へとうつりました。「がんと診断された時から、その人は人生のいろいろを考えるもので、その時点ですでにがんサバイバーである。」とのがん体験者である医師の主張や、「がんの進行度や病気を超えて、がんと診断されてから死の瞬間まで生存者である。」とのNCCS（National Coalition Cancer Survivor-ship）の定義が紹介され、がんサバイバーということを広く捉えるという新しい考え方を理解することができました。

また、「隣がん患者の死にいたる体験の分析」、「医師によるがんの病状説明の実態調査」、「がん看護に従事する看護師のがんサバイバー支援における知識・信条・役割」などの研究内容の紹介があり、これらの研究を通して今後求められる看護師像、専門職としての職務など熱く語られました。

会場の方からも熱心な質問があり、病院・訪問看護ステーションの看護師が、がん患者さんへの支援についてとても悩まれていることがうかがえました。

今年度の参加者は、準備に手間取り各施設に案内状を送るのが遅くなった関係から例年より少なく23名でした。

参加者によるアンケート結果

年齢(人)	人数
20歳代	2
30歳代	6
40歳代	8
50歳代	5
不明	2

居住地域(人)	人数
県 北	5
県 中	1
県 南	1
会 津	11
相 双	0
い わ き	1
不 明	2

参加者の職種は、総合病院の保健医療職が多く、訪問看護ステーションの看護師がその次に多いようでした。

感想としては、「三浦先生の講演が聴けて大変よかったです。病院でも取り入れていきたい。」「在宅にかかわり看取りを行っているがどうしたいかは患者さん本人、家族が決めることでそれに看護師がより添えられるようになるといいと思っている」などと、好評でした。「再発、転移、症状悪化に伴う、本人及び家族への支援で悩むことが多いので、そういう時のコミュニケーションスキルなども学びたい」との声もありました。

また、昨年は参加希望に対して返事がないと参加していいのかどうかわからなくて困ったとの声もありましたので、今年度は「受付確認の返信の必要の有無」を記入してもらうことによりスムーズに参加していただけたのではないかと思います。